

令和5年度 事業報告書

1. 事業報告

<総括>

我が国は、気候危機とも言われる気候変動問題に対して「脱炭素」、「循環経済」、「分散・自然共生」という3つの切り口から、脱炭素を核とした地域循環共生圏の実現と私たち一人一人が実践するライフスタイルの変革による新たな循環共生型の社会を目指してきた。

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書では、「人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことは疑う余地がない」と記され、私たちの毎日の活動が地球温暖化に影響を及ぼしているということを認識し、一人一人がモノやサービス等の購入時に、脱炭素化や生物多様性の保全等につながるかどうかを考え、合わせて一人一人の購入活動等によるライフスタイルシフトが、企業の環境に配慮した事業活動を突き動かす力にもなり得ると考えられた。

新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、私たち人間の活動による気候変動、資源の大量消費、生物多様性の損失等の危機によって、持続可能な社会が危ぶまれた。将来世代が希望を持つことができる社会を引き継ぐためには、「脱炭素」、「循環経済」、「分散・自然共生」という多角的な切り口によるアプローチから、一人一人の基盤である地域で企業活動から一人一人のライフスタイルまで横断的な変革を実践していかなければならない。

2022年には、2030年までに脱炭素を実現する「脱炭素先行地域」の募集が開始された。この変革に向け、私たち一人一人は、科学的知見を基とした情報から現状を知って行動に移さなければ、将来世代に希望を持つことができる未来を引き継ぐことができないと考えた。このような中、設立して26年目を迎えた当社は、鳥取県東部圏域の環境衛生の安定と圏域住民の安全で安心な暮らしを支えるため各事業に全力で取り組んでいる。

令和5年度は、リファレンいなば、因幡霊場、白兔グラウンドゴルフ場の3施設が、鳥取県東部広域行政管理組合から指定管理者として指定を受けて期間満了の5年目となった。また、環境クリーンセンターは、一部受託業務として従来どおりの管理運営を行った。これらの指定管理業務及び受託業務について、公益財団法人として今日までに積み上げた実績と貴重な経験を基に、新たな目標を設定し、より効率的で適正な管理運営業務の推進と更なる体質強化を図り、信頼される公社づくりに努めた。

また、鳥取県東部広域行政管理組合及び関係市町、さらには地元の企業ならびに教育機関との連携を密にするとともに、公益性を保持し、より柔軟性に富んだ住民サービスの提供と効率的な運営を図るよう努めた。

なお、鳥取県東部広域行政管理組合の指定管理者施設である3施設について、次期指定管理者の選考会があり、当社が令和6年度から5年間、引き続き指定を受けることができた。

令和5年度における決算の状況は、新型コロナウイルス感染症が5類となり、ほぼ計画的な予算の執行が出来た。

因幡霊場においては、利用件数が4,340件で前年度に比べ259件、利用料金は102,179千円で前年度に比べ6,304千円それぞれ減少した。また、予算対比でも利用料金が5,406千円の減額となった。白兔グラウンドゴルフ場では、利用者数が27,182名で前年度に比べ利用者数1,853名、利用料収入が7,943千円で1,548千円それぞれ減少した。

一方で、収益事業である因幡霊場喫茶売店事業では、利用料収入が11,573千円で1,138千円の経常段階での当期収益を、畜魂供養事業では、利用料収入が578千円で228千円の経常段階での当期収益を確保することができた。

これにより、期末における正味財産の合計額は117,613千円（基本金10,000千円を含む）となった。

(1) 評議員会の開催

年月日	回数	決議・報告事項	
R5.6.20	定時 (第10回) 出席評議員 4人 欠席評議員 1人 出席監事 1人 欠席監事 1人	議案第1号	令和4年度公益財団法人鳥取県東部環境管理公社収支決算の承認について
		議案第2号	公益財団法人鳥取県東部環境管理公社評議員の選任について
		議案第3号	公益財団法人鳥取県東部環境管理公社監事の選任について
		報告事項	職務執行状況について

(2) 理事会の開催

年月日	回数	決議・報告事項	
R5.5.24	第1回 出席理事 4人 欠席理事 1人 出席監事 1人 欠席監事 1人	議案第1号	令和4年度公益財団法人鳥取県東部環境管理公社事業報告及び収支決算の承認について
		議案第2号	公益財団法人鳥取県東部環境管理公社定時評議員会へ提出する評議員候補者の選考について
		議案第3号	公益財団法人鳥取県東部環境管理公社定時評議員会へ提出する監事候補者の選考について
		議案第4号	公益財団法人鳥取県東部環境管理公社定時評議員会の招集について
		報告事項	職務執行状況について
R6.2.13	第2回 出席理事 5人 出席監事 1人 欠席監事 1人	議案第5号	令和5年度公益財団法人鳥取県東部環境管理公社収支補正予算(第1号)について
		議題第6号	令和6年度公益財団法人鳥取県東部環境管理公社事業計画及び収支予算について
		議案第7号	公益財団法人鳥取県東部環境管理公社給与規程の一部改正について
		報告事項	職務執行状況について

(3) 監事会の開催

年月日	監査内容
R5. 5. 22	令和4年度決算監査

2. 事業内容（事業報告の附属明細書）

I リファーレンいなば事業（公益目的事業1）

1. リファーレンいなばの管理運営に関する事業

「ごみの少ないライフスタイルを考えよう！」のキャッチフレーズを掲げ、鳥取県東部圏域内の情報発信の場として、日常生活の中から、ごみの発生原因を追求し、再使用・リサイクル等の「4R運動」を基軸として、「循環型経済都市づくり」に寄与する普及啓発事業を推進した。また、館内の展示資料、体験内容、広報・チラシ等の改善・充実を図り、環境問題は一人一人の問題であるとの認識に立ち、地域住民のごみ問題、環境問題等の意識啓発活動の積極的推進と、ボランティア「エコフレンズ」の育成充実を図りながら、実効性のあるごみ減量化への事業推進に努めた。

(1) リサイクルに関する意識啓発事業

廃棄物の減量化及び資源の有効利用を促すため地域住民の意識啓発業務として、次の事業を行った。

① 「4R運動」の推進

廃棄物の少ない循環型社会を構築するために必要な「4R運動」を中心とし、ごみの減量化及び再利用、再資源化等の情報を整備して、住民意識の喚起を図った。

- ・リフューズ・・・要らない物は断わり、ごみを発生させない。
 - ・リデュース・・・食べ残し、使い残しを無くし、有効利用を考える。
 - ・リユース・・・捨てないで生かして使う。再使用。リターナブル製品の使用推進。
 - ・リサイクル・・・徹底した分別排出を行い、リサイクルをしやすいとする。
- ＊ごみの減量化「4R運動」推進コーナーの充実・更新。

② リサイクル体験教室の開催

イ 日常生活の中から出て来る廃棄物を利用し、リサイクル意識を高めていただくための体験教室を開催した。（開催回数61回、参加者330名）

教室名	回数	教室名	回数
廃材利用の木工	8回	ハップウリース	1回
健康布ぞうり	10回	マグカップウォーマー	1回
裂き織り	4回	おにぎりバッグ	1回
余り布作品作り（マイバック）	8回	苔盆栽	2回
クリスマスオブジェ	1回	ミニ門松	1回
キメコミアート	1回	うさぎの雛飾り	1回
鍋つかみ	1回	夏休み教室（収納ラック／風鈴）	2回
PPバンドのかご	2回	その他（随時受付分）	17回

- ③ 啓発用展示物及びリサイクル体験コーナーの整備、充実
 ごみ減量化等の意識を醸成する啓発パネル、リサイクル作品等の整備、更新を図るとともに、ファクトリーの運営及び体験内容等の検討・充実を図った。
- イ ごみの分別に関する資料及び展示コーナー・啓発展示ブースの整備・更新
 (新設) ・ごみの出し方変更紹介(鳥取市)パネル展示
 ・安全なごみ処理のための啓発パネル展示
 ・ペットボトルの出し方についてのパネル展示
- ロ 資料の整備・更新、啓発展示等の更新
- ハ ファクトリー内・フロアー・4Rコーナー等展示物の整備・充実、啓発展示ブース等の整備、更新
- ニ リサイクル家具・調度品等の調達・再生・展示事業の整備・充実
- ④ 来館者に対する啓発説明内容の充実
 来館者に対し、ごみの分別・環境問題への理解を深めてもらうために、年次的な実績数値など説明内容の充実を図った。
- ⑤ 講演会の開催(エコフェスタ in 2023 と同時開催)
 「惑星地球号と自然界の大法則」講師：公立鳥取環境大 名誉教授 足利裕人氏
- ⑥ リサイクルイベントの開催
- ・第27回リサイクルフェスティバル 6月4日(日) 参加者 2,013名
 施設修繕と新型コロナの影響で中止していたが5年ぶりに開催した。
 - ・エコフェスタ in 2023 11月19日(日) 参加人数 1,289名
 昨年は新型コロナ感染対策を講じ、内容を一部変更して開催したが、今年はコロナ前と同様の規模で開催した。
 - ・エコバスツアー 8月23日(木) 参加者 45名
 可燃物処理施設「リンピアいなば」と不燃物処理施設「鳥取県東部環境クリーンセンター」を見学し、ごみ処理等について理解を深めた。(4年ぶりの開催)
 - ・秋のお宝みつけ市 9月10日(日) 参加者 113名
 おもちゃ、古本、雑貨、楽器に加え、普段は扱わない洋服などを有料(一部無料)で提供した。(4年ぶりの開催)
- ⑦ モニターによるごみ環境家計簿の実践
 ごみ減量化・環境問題の実情を身近なところから感じてもらうため、4月～3月にわたってモニターを募集し、ごみ減量化に向けて意識を高め、理解を深めてもらった。
- <モニター期間>
- ・4月～9月 鳥取県東部地区 12名
 - ・10月～3月 鳥取県東部地区 11名
- ⑧ ごみ出前講座の開催(ごみパトロール)
- ・JA鳥取いなば女性会 7月25日(火) 参加者64名
 - ・大正小学校親子会 10月7日(土) 参加者62名

・八頭町生涯学習専門学校 12月9日(土) 参加者12名

ごみの減量化・環境問題の実情を身近なところから感じてもらえるよう、具体的な説明を踏まえつつ実施した。リサイクル工作も併せて実施した。

(2) リサイクル情報の収集及び提供、リサイクル活動の支援に関する事業

地域住民が必要とするごみ問題及び環境・リサイクル等に関する情報を収集し啓発資料として提供できるよう改善、整備を図った。

① リサイクル情報の収集と提供

ごみ問題やリサイクル等に関する情報を収集、蓄積し整備を図るとともに、公社ホームページ、広報誌等を活用して情報の提供をした。

イ ごみの分別及び環境情報、リサイクルイベント情報、エコショップ情報等の整備、更新。月刊「廃棄物」の年間購入。

② 団体等のリサイクル行事及び地域活動の支援

(外部イベント支援9回、参加人数1,069名)

<支援内容>

日付	団体名	日付	団体名
4/29	鳥取市花のまつり	8/5	農高南町内会
9/3	大正小学校1年親子会	9/14	ひいな学級
10/22	明德地区公民館祭	11/2	用瀬人権センター
11/3	鳥取市木のまつり	11/11	リンピアいなば一般開放デー
11/25	鳥取まちゼミ	—	—

(リファーレンいなば利用状況は資料1のとおり)

③ 啓発動画作成(リファーレンいなば公式 You Tube チャンネルにて公開)

・家庭から出た不燃ごみの直接搬入について(鳥取県東部環境クリーンセンターへの直接搬入ルートを分かりやすく紹介)

④ 持続可能な地域社会の実現に向けて、公益財団法人鳥取県東部環境管理公社として、鳥取県の「SDGs パートナー制度」に登録(令和3年9月登録)

II 因幡霊場事業(公益目的事業2)

1. 因幡霊場の管理運営に関する事業

人生終焉の場にふさわしく、管理体制の更なる充実と、健全で円滑な業務運営を図った。

また、利用者サービスの一環として行っている喫茶・売店の運営、収骨室への案内、親族待合室の整理・整頓、畜類納骨・供養施設の維持管理、畜魂慰霊等についても利用者の心情に配慮しつつ業務の推進に努めた。令和5年5月に新型コロナウイルスが5類となり、規制が緩和されたが、引き続き感染予防対策を講じ、業務をおこなった。

イ 施設等の管理体制の充実を図るとともに、財務・会計管理の徹底及び効率的運

用の実施。

ロ 終焉の場にふさわしい、礼節をわきまえた業務の実施・推進。

【火葬場の利用】

遺体等 3, 214件 畜類 1, 126件 合計 4, 340件

待合室の利用 2, 851件 63, 749名

(因幡霊場利用状況は資料2のとおり)

Ⅲ 白兔グラウンドゴルフ場事業（公益目的事業3）

1. 白兔グラウンドゴルフ場の管理運営に関する事業

東部圏域の住民福祉の増進を目的としたスポーツ、レジャー施設として建設された白兔グラウンドゴルフ場は、「笑顔で対応・芝管理の徹底！」をキャッチフレーズに掲げ、高齢者の利用が多い中、笑顔と親切丁寧な対応に心がけると共に施設の保全、愛される施設づくりに万全を期した。今年5月に新型コロナウイルスが5類となり、規制が緩和されたが、引き続き感染予防対策を講じ、公社主催の大会等を開催した。

イ 芝等の適正管理及び機械化等による自家作業転換の推進。

ロ 月例大会の計画的開催及び団体利用受け入れ拡大、推進。公社主催の大会を年間14大会予定していたが、豪雨による進入路の下斜面が崩れ、来場者の安全を考慮し1大会中止し、13大会開催した。

鳥取市合併記念大会・新因幡大会を開催した。

ハ 本年度も夏場（6月1日～8月10まで）の時間延長を実施した。

ニ 白兔GG場の利用促進として「うさぎ年だよ！白兔GG場来て来てキャンペーン」を実施した。

(概要) 白兔GG場の利用1回につき、キャンペーン券1枚を配布し、10枚集めると1回無料で利用できる。

【第1弾】4月1日～9月30日 利用人数：208名

【第2弾】10月1日～3月15日 利用人数：238名 合計：446名

ホ 白兔GG場瓦版の創刊

白兔GG場の日常や、白兔GG場で行われた大会結果、ご利用いただいているチーム等を紹介した。(創刊号：令和5年7月発行)

ヘ 7月13日の豪雨により、白兔GG場への進入路の下側斜面が崩れ、通行の安全確認のため、7月13日～7月15日の間臨時休業（1大会中止）とした。

7月16日から片側交互通行を実施し通常営業を再開した。(8月19日解除)

また、8月15日は台風7号の接近に伴い、進入路の安全性を考慮し、臨時休業とした。

この白兔グラウンドゴルフ場は、昭和59年から平成8年までの13年間にわたり、東部圏域1市4町の一般廃棄物最終処理場としてその使命を果たしてきた。埋立後は処分場のイメージ払拭と、跡地の有効利用策として圏域住民の健康増進に寄与することを目的として整備された。また、管理型処分場であるため、埋立物が安定し、かつ、水質が安定するまでは管理を継続する義務がある中で、今でも底地からの汚水を処理するた

め浄化施設が稼働しており、定期的な水質検査やガス検査等を東部広域が実施し、処分場としての管理も継続されている。

(1) 施設の利用人数

個人 15,875名

団体 11,307名

合計 27,182名

(白兔グラウンドゴルフ場利用状況は資料3のとおり)

IV 因幡霊場喫茶売店事業(収益事業1)

鳥取県東部広域行政管理組合より指定管理を受けた因幡霊場において、その利用者の利便向上を図るため、収益事業として飲食ならびに物品の販売を行った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため酒類の販売を中止していたが、令和5年5月より販売を再開した。

【喫茶・売店の利用】

喫茶売上品数 22,506品(内ホットコーヒー 10,648杯)

売店売上品数 1,865品

合計 24,371品

V 因幡霊場畜魂供養事業(収益事業2)

鳥取県東部広域行政管理組合より指定管理を受けた因幡霊場において、動物の火葬を行う中で、お骨を持ち帰ることが困難な利用者に対して納骨と供養を行った。

VI 環境クリーンセンター等の受託に関する事業(その他事業1)

資源回収選別工場では、資源物の再生と良質化が要求される中において、東部再生資源事業協同組合と連携し、鉄、アルミ、ガラス、ペットボトル等の適性でかつ安全な現場作業に努めるとともに、良質な資源回収を行い、埋立作業についても安全で安定した埋立作業に努めた。また、住民に施設を公開して、「ごみの分別やりサイクル」についての意識啓発活動を推進した。

イ 環境クリーンセンターの安全かつ効率的な運転管理の徹底。

ロ ペットボトル等リサイクルセンターでは効率的な管理・運転作業の徹底及び実施。

ハ 埋立処分場では、適正・安全な埋立作業の実施。

(環境クリーンセンター搬入状況は資料4のとおり)

VII 管理部門(法人会計)

受託及び指定業務の管理運営体制の充実を図るため、事務局を中心に適正で効率的・継続的な財政運営を目指して、経営の健全化に努めた。

<受託事業 年月日>

[事 業]	[受 託 年 月 日]
リフアーレンいなば	平成 9年4月1日
環境クリーンセンター	平成 9年4月1日
因幡霊場	平成10年4月1日
白兔グラウンドゴルフ場	平成12年8月1日
ペットボトル等リサイクルセンター (環境クリーンセンター)	平成14年4月1日
食品トレー	平成15年4月1日 (令和5年3月31日終了)
(環境クリーンセンター)	

◎ 合計役職員数 常勤役員1名、事務員2名、技術員11名、嘱託員13名、
パートタイマー8名 総合計35名 (令和6年3月31日現在)